

関西大学インターネット・ホームページ(右)と各学部の紹介ページ(左)



大学教育における 不易と流行

水越 敏行

「不易と流行」という古い対語は、大学教育のあり方を論ずる時に今なお有効である。

まず不易(変化らないもの)の面からみると、大学教育は講義・演習・実習・卒業論文などで構成される。講義は一人の教員が百人以上の学生に、基本概念や方法論を一斉授業の形態で概説する。これだけが大学の授業だと普通は思われがちだが、演習になると様相は一変する。学生数も二十人前後で、学生が講義、発表、質疑応答や討論をする。教員は文献や資料等の選定と、助言や質問をする。実習はまた別であり多様化する。機器の操作、制作、実験などを学生各自が遂行する。教員は示範したり、基本手順は教えるが、後は学生がマイペースで実行する。外国語の学習も基本的にはここに位置する。そして卒業論文になると、研究計画、調査や実験、分析とまとめ等を全て学生自身でやる。教員は、担当する学生が各自で仕上げていく過程で、指導し助言するが、結局は学生が自分の能力と責任で書き上げていくしかない。以上が私が所属する総合情報学部と、前任校の人間科学部という「文理総合型」の学部をモデルにしたもので、各大学や学部で名称や内容に微差はあるが、本質は同じである。こうした異質な組み合わせの妙が、大学教育の実質の本質なのである。次に時代と共に変わるべき流行とは何なのか。新しい電子技術の普及で、大学の学習環境や機構を根本的に変革していく必要が出てきた。例えば FAX、携帯電話、ビデオ、ビデオゲーム、パソコンで、諸君の出生時に既に普及していたものが幾つあるだろう。これらのメディアに共通する特徴は、相互作用性、双方向性、分散性、そして個性性である。中でもマルチメディアとインターネットの普及には、小学校から大学まで、学校が傍観者ではおれない危機感をもっている。一つのパソコン画面上に、動画、静止画、音響、文字などが取り込める。今までそれは別々のメディアとして扱われていたのだが、デジタル変換で、一つの画面に取り込める。しかも利用者が自分で選択でき、更に加工や編集も可能である。こんな教材は今まで存在しなかった。個々の学生が別々のメディアを選び、それと相互作用して学ぶことは、近代教育の遺産である一斉授業システムを根底からくつがえす。

もう一つはインターネットで、地域や国を越えて自由につながり、情報の発信と受信ができることである。こうなると遠隔共同学習ができるし、学生が国の内外の専門家とリアルタイムで情報のキャッチボールができる。これまた革命的なできごとである。大学が宿命的にも閉鎖性は、一人の学生のパソコンがインターネットに接続されただけで、突き破られるのである。

これらのニューメディアや新技術を積極的に取り入れつつ、大学教育の不易と流行をどう推進していけるか。諸君と共に悩みつ

つ、新しい可能性を切り開いていきたい。

(総合情報学部教授)

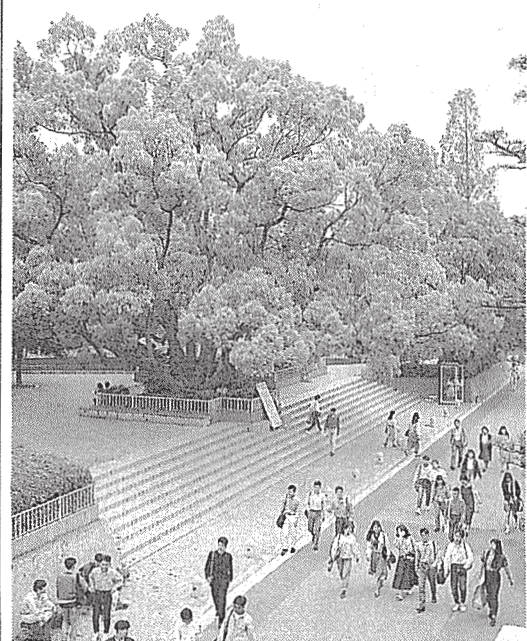
HEADLINE

8 面 就職シーズン前に
新入生がみた経済学部
アンケート調査から
「自己点検・評価報告書」
が完成

千里眼

インターネットという新しいタイプの情報通信技術の登場は、産業社会における情報の伝達や利用の在り方を一変させた。現在、この新しい情報技術について様々な利用法が次々と考案され、バーチャル(仮想)ビジネスやバーチャルコ

ーポレーションも夢でなくなつた。アメリカは、この新しい情報通信技術の価値をいち早く認め、国によるそのためのインフラ、光ファイバ通信網の整備が行われ、通信人口も急激に増大し、すでに本格的な利用に突入している。わが国が、アメリカのように本格的に利用していくためには、光ファイバ通信網などの通信インフラの整備、通信料金の一層の引き下げなどを待たなければならぬが、その利用は着実に広がっている。なかでも大学と深く関わっている利用法の一つとして、企業のインターネットによる求人が挙げられる。今年の就職戦線で、企業求人におけるインターネットの活用が本格化している。ホームページによる採用情報の提供だけではなく、仮想面接体験できる企業まで登場している。こうした企業側の動きに対して、関大も現在鋭意その環境を整備している。学生諸君もできるだけ早くアクセスや利用法を身につけて欲しいものである。(Y.O.)



學生生活實態調查

調査について

平成七年度学生生活実態調査の結果がまとまった。今回の調査は、昭和三十年以来継続して実施している本学独自の調査である。これは、同種の質問項目について経年的データを蓄積することに主眼をおき、学生生活の実態を見定めようとするものである。

調査の方法および対象者については、平成七年九月一日現在の在生者に、第1部：第2部：第3部に学月1：第2：第3の層比比例抽出法により、第1部は十分の一、第2部は五分の一の割合で抽出した。調査票の郵送とし、回収は郵送もしくは各学部事務課・調査課の回収箱に手交するものと方法で行った。調査期間は平成七年七月二十一日から平成七年七月五日までとし、有効回収率は第1部五十四・七％、第2部六四・五％であった。

紙面の都合で、ここに挙げた内容は調査結果の一部であり、調査全体については「平成七年度学生生活実態調査報告書」を参照していただきたい。

大学・授業

満足度
トップは図書館
第2部、千里山移転で上昇

○本学に入學した理由
(入學理由の第一順位)
まず、學生諸君が本
學した理由についてみ
う。

第一部では「学力相応」が二・三・九でトップ、これとほぼ同率で「本学の特色・学風」が並ぶ。

第2部をみると、トップが二・一・七の「教育内容や専攻分野であるが」、「学費のことがこれに続き、大学選択時における経済事情が二・一・七の結果となつて

男女別はどうか。第1部では、男は「学力相応」がトップになつてゐるのに對し、女は「本学の特色」が風をきこける。第2部では、女子において「教育内容と専攻分野」が三〇・四と獨立している。また、就職や将来「知名度」ともに男子のほうが高い。女子のほうでは本来的な特色を重視した大学選択を行つてゐるというところであつた。

② 学生生活実態調査は、その名が示すとおり学生生活の一面が趣向して調査されてきてゐる。前回調査（平成四年度）から、魅力ある関西大学を、さて改革の手がかりとして、大学に対する満足度として項目を設けている。この設問は、授業内容、リキラム、先との交流、教の設備、体育施設、図館、クラブ活動施設、福利施設、キャンパス内環境、学生生活、留學制度、職業奨励金制度、留學制度、職

それぞ「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」判断で、
きなのの5段階で回答する
ものである。

第1部では、満足度の高いもの
のトップ5は、「図書館」「キ
ャンパス内環境」「体育施設」
。「教室の設備」「福利厚生施
設」となっている。

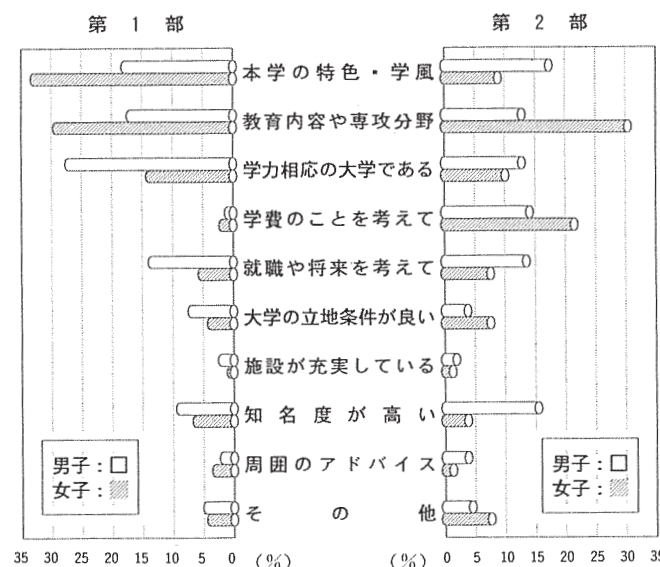
第2部では、「図書館」が最
も満足度が高く、以下「教室
の設備」「体育施設」「キャン
パス内環境」。「職員の見
待」と続く。

これらの結果を、前回調査
（平成四年度）と比較した場
合、第2部の変化が目に付く。

「図書館」「クラブ活動の
動機」と「キャンパスの環
境」のハート面について、
いれもかなりの割合で満足
度の向上がみられる。

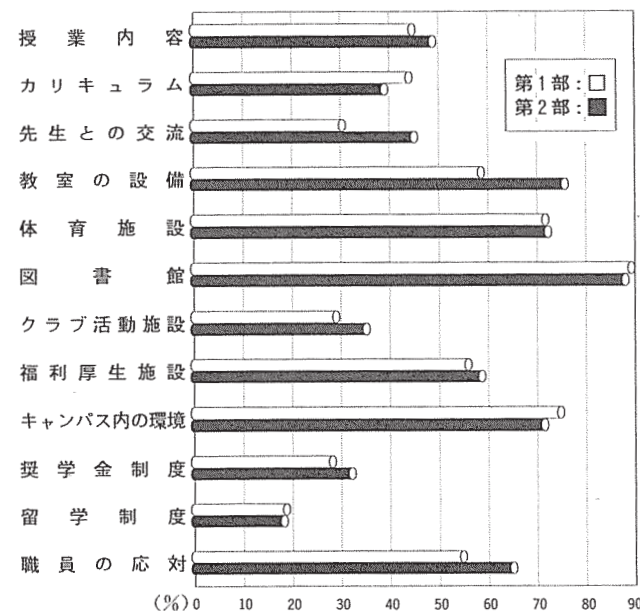
また第1部においても、
「教室の設備」について満足
度が前回二、三、六、七、八
に比べて、今回は五・八・六・
七・八と上がった。前回調査
で学食/冷房設備が整備され
た状況が、調査結果に反映
されたと考えられる。

本学に入学した理由 (第1順位)



大学に対する満足度

満足群（満足＋ほぼ満足）



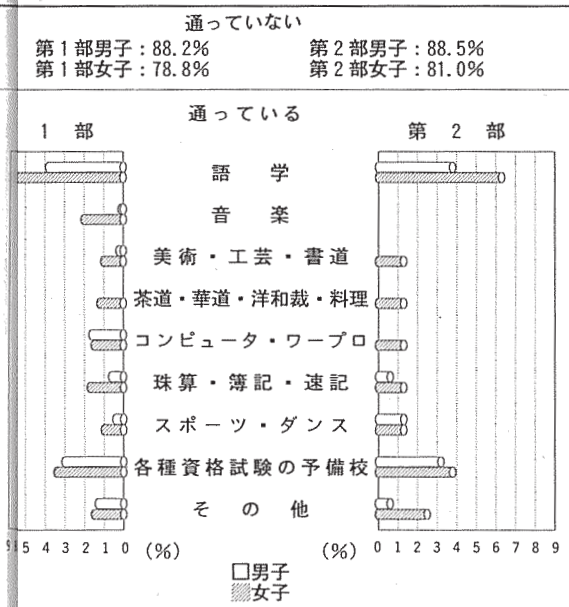
学生生活

高い女子のクラブ・サークル所属率

○クラブ・サクル活動
好会を含むの割合が、第1部、第2部ともに割合を超え、その所属率をみると、第1部の所属率は四一・七％、第2部は六三・七％、第4部は一七・七％となっている。また、第1部・第2部ともに、男子より、女子のほうが所属率が高くなっている。

今回の調査では、さらに「クラブ・サクル活動で得たもの」を、クラブ・サクルのジャンル別にまたクラブを紹介してみよう。

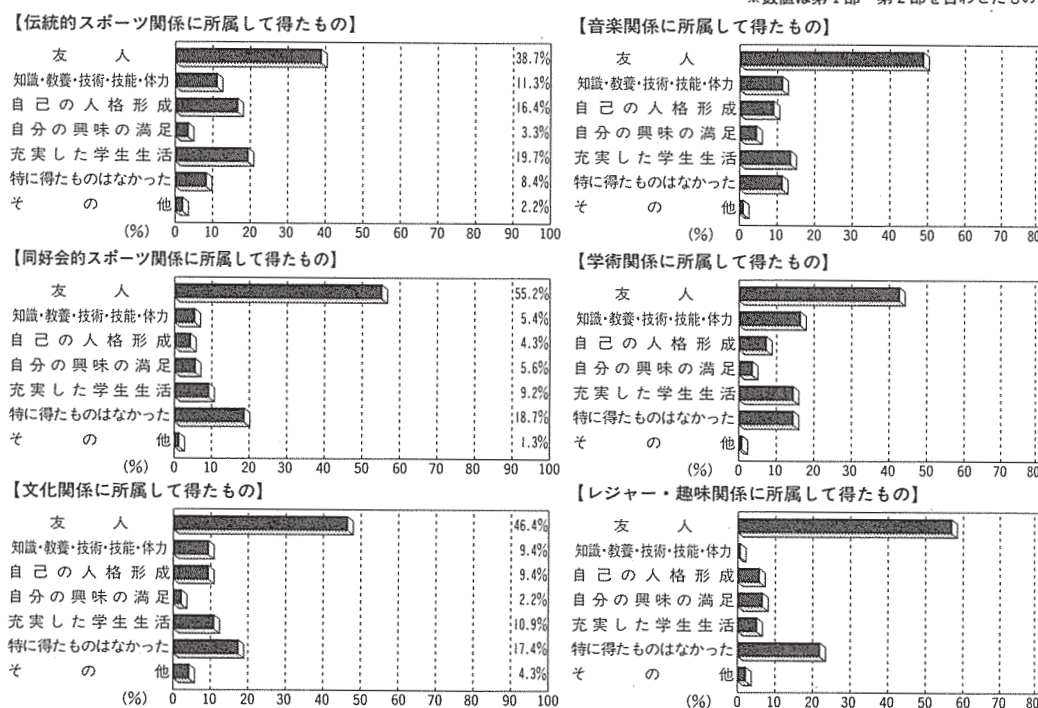
ダブルスクール



平成度

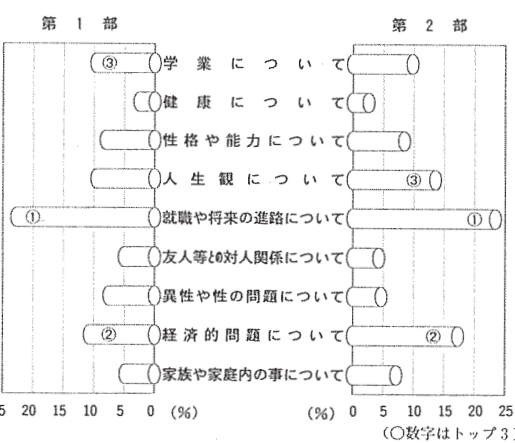
クラブ・サークル活動で得たもの

※数値は第1部・第2部を合わせたもの



不安や悩みの程度

各項目別にみた「深刻に悩んでいる」人の割合



海外旅行経験者増える

本調査に一番人気は二十年前
変わつてゐる。前差の調査
で、第2部男子の第一位を占
めていた「各種資格試験の手
備けが、本調査では第1部、
第2部、男子、女子ともそれ
る。

海外旅行経験者増える

一・四%、第2部一九・一%
↓九・七%、二八・五%
男女別に見ると男子は男
子の実に二倍弱が経験して
る。また、学生生活の充実度

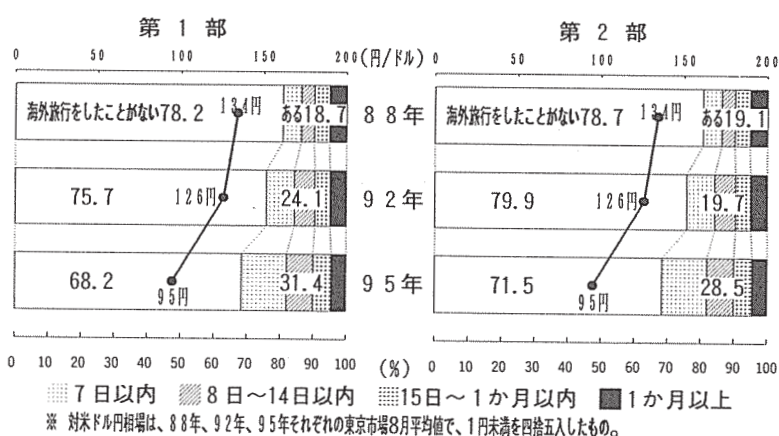
率が高いほど海外旅行の経験
率が高い、という傾向のみら
れる。

さらに、海外留学の経験者
も増加しており、とくに第2
部の伸びが大きく、第2部と
の差がぐくまれ、男女別に見
ると、これも女子が男子の
ほぼ二倍となつてゐる。

なると、海外旅行の予定と
なる。四年次生は減少し、
彼らを取り巻く環境の変化を
表していると考えられる。

海外旅行の経験・期間

海外旅行経験率と対米ドル円相場の推移



經濟生活

「平均収入・支出」ともに減少

平均収入「二」月の平均支出が、前回調査、平成四年度より、全国的に減少しているということである。

まず、平均収入を見ると、自生生の「家庭から」の援助は、第一部二、七〇円、第二部二〇、八六六円といふアルバイト収入にいてもアルバイト収入にいても前回調査を下回っており、特に第二部では、自生生・自宅外にも前回より二万円以上も低い金額となった。

不況によって高賃金のアルバイトが減少しているのか、学生のアルバイト就任態に述べた住居費と通学費については支費が増加している。

バブル経済崩壊後の長期的な不況や、昨年一月の阪神大震災の影響など、社情勢が調査結果に現れているのかも

『学の実化』の題名で

は法学部のある第1学舎の前に、また大学中興の祖といわれた山岡の像は、グラウンド

書』をはじめ『学の実化』の一連の刊行物は、本学の図書館でも閲覧することができ
る。
(工学部教授)

商学部教授 井上昭一
他編著

西竺乃受 廿二

► 編集後記 ◀

ニケーションを期待いたします。
(西山記)